自明治十六年至明治二十二年
外國人教師關係書類
音樂取調掛
東京音樂學校

肅啓

今般當音樂取調ニ於テ管絃樂器專門教師一名伊太利國ヨリ傭入致度ニ付右傭入之儀大木文部卿ヨリ閣下ヘ及依頼候ニ付テハ承知之通當音樂取調ノ儀モ追々事業進歩致シ尚更ノ場合ニ至リ候テハ音樂學校ノ儀モ追々ニ盛大ニ相成候ニ付テハ教師ノ儀モ追々ニ多ク傭入置度存候間此段モ御含置相成度候也

粛啓

今般當音樂取調所ニ於テ管絃樂器專門教師一名伊太利國ヨリ備入致度候ニ付右備入之儀大木文部卿ヨリ尚下ヶ及ヒ承知之通當音樂取調所ニ於テ管絃樂器專門教師一名伊太利國ヨリ

聘用致度者議ニ有之将又當所ニ於テ右ノ教授嘱托ヲ以テ見込ノ箇條ハ

Instructor to obtain (musicians such as violinists, violoncellists, double bassists, flautists, clarinettists, bassoonists, cornetists, trombonists, and percussionists), and to teach the theory and practice of them, as well as general instruction in the Blowing Instruments

ニ命スベキ旨條約堂上ニモ記載致

置度得共同ヨリ以上教科、専門樂器教授ノ任ニ堪ヘベキ者乃ヲ一人ニ望、其儀ハ大ニ困難之儀ト想察仕候ニ依テ右望之通ノ者乃ヲ有之候得共大幸之儀、有之候得共若シ萬一否ホレバ(管樂器)教授、者乃ヲ有シ聘ニ應ジ候者

ヲ得ザレバ Harmony (和聲)ノ理論及

実地並ニ Instrumentation 管樂

教授ノ者乃ヲ有之候ニテモ無餘儀

次第ニ有之候ニ付去本邦之儀ハ
ほゞ熟知之事情ニ有之候ニ付
學器一科目ノミニ居り他ノ學器ニ
就テハ一向不心得ニ有之候ニ付
長ニ居り他ノ學器ニ
合ニ有之又音學技術ニ於テハ申分
無之者ニテモ訓練教授ニ不親切ナル
者ニテモ甚タ不都合ニ有之候ニ付旦言語等
之儀モ本邦ノ現情ニテハ特ニ伊太利
一國ノ語ノミニテ他ノ國語ニ心得無之
者ニテモ當惑致候ニ付良ク仕込ミ少々ニ
而も英佛

獨中ノ一國語ニ通居候者ヲ以テ
候儀ニ有之候ニ付右等ノ過篤ト
察之上適當之者ニ周旋被下度
此段御通知旁御懇請仕候也 敬具

年月日

在伊國
田中公使宛

本所長
官姓名

長官

本所音羽教会備付
田中主管之役一名
音羽教会
神津寿一郎

右報告候也

追而陳者今般当駐箚地
音羽教会設置ニ付テハ
当省ノ教師ヲ派遣方
可然御取計相成度此段
申進候也

年月日

在清國
日本全權公使 殿

本邦官吏

官姓名

粛啓
陳者今般汽船 地方ノ 當春東京府下
音無教校ヲ名 倫敦 ニ於テ開
ケ生徒ヲ教育スル事ニ相成候ニ付テハ 方今既ニ汽船
相通シ往來自由ノ 之候ニ付テハ 目ノ 既ニ
差支ナク生徒学業進歩ノ 可成丈速ニ 遣當
ノ教師ヲ 来朝ヲ 成候
ニ付テハ 御當方ニ於テ 御
旅行ノ 音樂 為 御差
支ナキ 御證書ヲ 本
國ノ 官吏ヘ
年月日

本邦官吏

官姓名

文部省

外國教師關係書類

明治二十九年一月ヨリ

在伊國
田中特命全権公使

條約

日本文部省總務局長文部次官辻新次第一
方ニ在リ和蘭人プロフエスール、デウ、ピヤ
ハ、「ジー」、ソブレー」氏第二方ニ在リ取結フト
コロノ條約左ノ如シ

第一條　前文「ソブレー」氏ハ明治二十年（千八百
八十七年）四月一日ヨリ仝二十一年（千八百八
十八年）三月三十一日マテ一ヶ年間文部省總
務局所屬音樂取調掛ヘ雇ヒ唱歌、洋琴、風琴、絃
樂、管樂、和聲、樂曲製作ノ、理論及實地教授ヲ嘱
托スヘシ

第二條　前文「ソブレー」氏ハ毎週月水金ノ三日
前文音樂取調掛ヘ出頭スヘシ但授業時間ハ

一日五時ヲ限リトス

第三條　前文ノブレー氏ハ給料トシテ一ヶ月ニ付日本紙幣貳百七拾五圓ヲ毎月末ニ受取ルヘシ

第四條　前文ノブレー氏ハ總テ第一方ノ指揮ニ從フヘキモノトス殊ニ學科教授ノ時間及ヒ順序ヲ定ムルノ權ハ第一方ニ在ルヘシ

第五條　前文ノブレー氏ハ其教授ノ事項ニ付充分其意見ヲ陳述スルヲ得ヘシ然レトモ其決定ノ權ハ第一方ニ在ルヘシ

第六條　前文ノブレー氏ハ疾病ニ罹リ三十日間引續キ其職ヲ廢スルコトアルトキハ此條約ヲ廢シ其翌日ヨリ給料ヲ相渡サヽルヘシ

第七條　若シ第一方又ハ第二方ノ者各自ノ都合ニヨリ此條約期限前ニ解約セントヲ欲セハ少クトモ三ケ月前ニ其旨ヲ他ノ一方ニ通知スルトキハ之ヲ解約スルヲ得ヘシ但本條ノ場合ニ於テ條約ヲ解クトキハ其翌日ヨリ給料ヲ相渡サヽルヘシ

東京ニ於テ

明治二十年（千八百八十七年）三月三十一日

日本文部省總務局長文部次官辻新次印

和蘭人

外國人關係書類

明治一年一月

Articles of Agreement betw
Mr. Shinji Isawa, Chief of the Bu
of Compilation under the Imperial
Department of Education, and
Director of the Tokyo Music Schoo
party of the first part and Mr.
of Austria party of the second pa

Art. I. The said Mr.
hereby appointed Instructor of
Music, Theory and Practice
Harmony, and general instru
in Vocal music, for the term
three (3) years reckoning from
the first day of September, the 21
year of Meiji (A.D. 1888) and
shall receive a sum of six hund
and fifty (650) Japanese silve
yen for the travelling expenses
Austria To Japan.

Art. II. The said Mr.
receive per month as salary
( ) Japanese
yen to be paid at the end of
month. For any part of a mo
the salary shall be paid at the

Gr. before the term of this engagement has expired, it shall have the right to do so by paying him the salary for three (3) months of the unexpired term.

Art. IX. The said Gr. at the end of this engagement unless his services shall be renewed as also when his services come to a

12

Citizen of

of Austria.

Yokohama
April 16th
1888.

Mr. S. Isawa.
Director of the Music
School, in Tokio.

Dear Mr. Isawa.

I have received your letter of the 7th April, and I have the honour to inform you that I will give instruction at the Music School, in Uyeno, (Tokio) every Mondays and Wednesdays, 5 hours each day, for the sum of $160, every month, from the 9th April, till the 9th of July, 1888, and by paying at the last day of instruction of each month.

Yours truly

S. Sambol

April 7. 1888

Mr. G. Sawlet.

Dear Prof.

I have the
honor to inform you that ~~you~~
you are requested to give instruction
on Music in the Tokyo Imperial
Academy of Music twice a week
(Mondays and Wednesdays) for five
hours each time, and we should
pay you ~~such tuition amount~~
by the rate of four (4) yen an
hour on the last day of your
instruction of each month.

Your work should begin
on the 9th (Monday) of this month
(April) and end on

14

15

音第一〇八号

大臣殿

東京音楽学校長

總務局専門学務局
會計学務局

付箋 至急調査表ノ通リ決裁ヲ仰度件

二十七年二月十六日

本校後来之目的ヲ確立スル上ニ着手ヲ以テ致度
音楽教師ヲ増員シ一週三回横笛表ヲ通ス
必要ノ場合ニ於テハ現今之教師ヲ以テ之ニ当ラシメ
動モスレハ有名ノ人ヲ聘スルノ弊ヲ免レ
又要用之生徒ニ於テモ甚タ便利ヲ得ヘシ
尤臨時雇入之義ハ別紙ノ通リ
支障無之候ニ付此段申進候也

二月廿七日

裁定廿一年三月十三日

往復課 一二三三號

係

係

係

音第一〇八号

大臣 次官 東京音楽学校長 殿

総務局長

専門学務局長

官房会計課長 殿

付箋還付

音楽教師備付之義ニ付伺

本校従来之目的確立ニ付テハ音楽教師ノ良否ハ最モ重要ノ事ニシテ又要スルニ有之候ニ付テハ現今之教師ハ僅ニ一週三回横濱表ヨリ通勤スル有之候ニ付テハ未タ適当之教師ヲ得ル不得甚差支有之候ニ付今般月俸凡銀貳百圓

裁定 大正一年三月三日

大正一年二月十六日

往復部 往復認 ㊀三三号

日記係

利根川教師 上旬着京ノ筈 現任教師 七月十日迄

新任教師 八月十日頃着京一ヶ月三百五拾圓完 二ヶ年度末迄ノ給料

以上八月ヨリ来ル翌年度分

科目	決算額	不足額
給料	一四〇〇〇〇	
新任教師一ヶ月三百五拾圓完	三九六〇〇〇	
以上八月ヨリ来ル翌年度分	二四〇〇〇〇	
旅費	六〇〇〇〇	
計	四〇〇〇〇〇	

科目	決算額	不足額
前年度繰越	四〇〇〇〇〇	
不足額	一二〇〇〇〇	
計	四〇〇〇〇〇	

大正一年度歳入歳出予算

歳入	予算額	歳出	予算額
前年度繰越	四〇〇〇〇〇	新任教師一ヶ年分給料一ヶ月三百五拾圓完	四二〇〇〇〇
不足額	一二〇〇〇〇	以上給料一ヶ月三拾圓完	四六〇〇〇
計	四〇〇〇〇〇	計	四八六〇〇〇

文部省編輯局長兎東京音樂學校長伊澤修二弟一方ニ在リ澳斯利國人リホ結フ條約左ノ如シ

第一條　前文

日（西紀一千八百八十八年九月一日）ヨリ向三ヶ年間弦樂器、和声ノ理論及實地及聲樂一般ノ教授ヲ掌トル教師ニ任スベシ而シテ澳斯利國ヨリ日本ニ至ル來航旅費トシテ銀貨六百五拾円ヲ請求ルベシ

第二條　前文

円ヲ毎月末ニ請求ルヿヲ得ベシ

氏ハ明治廿一年九月一日ヨリ向三ヶ年間弦樂

氏ハ給料トシテ銀貨

文部省

ノ二同三百五拾円ヲ以下夏ノ休業ノ間ニ於テ別ニ氏ノ修学ノ為メ音樂教師ノ老兎澳国ヨリ大凡三ヶ年間聘用ノ手續ヲ為シ且ツ該教師ノ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第十九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第二十九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第三十九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第四十九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第五十九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第六十九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第七十九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第八十九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十一條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十二條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十三條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十四條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十五條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十六條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十七條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十八條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第九十九條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

第百條　文部省ハ音樂教師ノ為メ旅費ヲ以テ澳国ヨリ本邦ニ来着ノ後ハ其ノ職務ニ従事セシムヘキヿ

ケ月ニ足ラザル時ハ日割ヲ以テ其給料ヲ拂フベシ

第三條　前文

氏在職中家賃トシテ一ケ月日本通貨三拾円ヲ請求ルベシ

第四條　東京音楽學校教授ノ時間順序ヲ定ムルノ權ハ第一方ノ者ニ在ルベシ尤前文氏ハ一日ニ五時間以上或ハ日曜日ニ教フルヲ要セサルベシ

第五條　前文

氏ハ其所管ノ授業上ノ件ニ就テハ何時ニテモ第一方ノ者ヘ其意見ヲ陳述スルヲ得ベシ然レ氏其裁決ノ權ハ第一方ノ者ニ在ルベシ

第六條　前文

氏病ニ罹リ四十日間引續キ其職ヲ勤ムル能ハサル時ハ本給ノ後給料四分ノ一ヲ請求ルベシ若シ病愛ノ日ヨリ三ケ月ヲ経テ尚其職ニ復スルヿ能ハサル時ハ此條約ヲ廢シ其翌日ヨリ給料ヲ渡サヾルベシ

第七條　前文

氏若シ自己ノ都合ニ因リ此條約ノ滿期前ニ解約ヲ請ハントスル時ハサクヒ八ケ月前ニ之ヲ第一方ノ者ニ通知スル時ハ解約ヲ得ベシ尤此條約ノ滿期前ニ解約スル時ハ若シ自己ノ都合ニ因リ此條約滿期前ニ前文

第八條　第一方ノ者若シ氏ヲ解約セント欲スル時ハ三ケ月分ノ給料ヲ渡シテ解約スルノ權アルベシ

第九條　前文

氏此條約滿期ノ節再約

セサルヤ及此條約第六條及第八條ノ旨趣ニ
因テ解約スルヤハ
五拾円ヲ渡スベシ若シ此他ノ條款ニ因テ其
職ヲ止ルヤハ前文旅費ヲ請求ルノ權ナカル
ベシ

明治廿一年　月　日（千八百八十八年　月　日）

文部大輔兼音樂學校長兼東京音樂學校長伊澤修二

澳斯利國人

三ヵ条ノ條約ヲ締結スルニ至ル

本校生徒ヲ養成スルノ儀ハ漸次進歩ノ域ニ向ヒ此際善良ノ教師ヲ得候ハヽ其學業益進歩可仕且隆盛ニ入學志願ヲ者モ有之將又本校ヲ儀モ目下創設ニ際シ候テハ善良ナル組織ヲ芳定シ後来ヲ規模ヲ確立候儀必要ニ有之候就而者今般樂曲製作理論講義管絃樂教授ヲ主ト為シ可相成ハ唱歌洋琴風琴其他音樂上一般ノ學科教授ノ任ニ勝ヘ且本校組織考按ノ顧問トモ可相成カフルニ日本音樂講義研究ノ篤志ヲ具ヘ其歌調ニ適シ後来本邦音樂上進ノ途ニ於テ深ク望ヲ屬スルニ足ルベキ者一名月俸凡三百五拾圓以上四百圓以下ノ見込ヲ以テ獨澳ノ中ヨリ招聘相成度右義可ヲ上ハ其招聘ヲ手續等更ニ可伺出候得共先以本案至急仰

一月廿六日　文

高裁候也

明治廿一年一月廿五日

東京音楽学校幹事
神津専三郎

文部大臣子爵森 有禮殿

追テ現今ノ教師雇分ノ儀ハ本文傭教師来航時日
等ノ儀モ尚未定ニ付当分従前ノ通嘱托候様致
度尚本文御差向ノ御取調ニ付テハ
来ル十日迄ニ御廻達相成度候也

文部省

来ル廿日午後一時ヨリ
第一教室ニ於テ
会議候条
出席相成度此段
及通知候也

文部省
第一局印

音樂取調所

19

至急

大正 年 四月 七日

東京音樂學校長 鹿島 [印]

大正 年 四月 九日

會計局長 [印] 要再回濟

大正 年 四月 九日

本校雇外國教師ヘーブレット儀去月 日限傭約滿期 朝敕更ニ本月九日 ニ仰付候間 教授嘱托 ヘーブレット滿期後更ニ 本校雇教師ニ 傭入候儀 會計局長ヘ 協議候也

本校

音樂取調所

第七

校長 幹事

本校嘱託教師ソーブー儀満期ニ付本月九日ヨリ本月
廿九日迄ニテ教授嘱托ノ儀別紙申出ノ通リ取計ヒ
度此段及申進候也

二年七月九日

大阪府

（別紙）

本校嘱託教師ソーブー儀満期ニ付本月九日ヨリ本月廿九日迄ニテ教授嘱托ノ儀別紙申出ノ通リ取計ヒ度此段及申進候也

二年七月九日

大阪府

第 号

時間表ノ通リ教授嘱托ノ儀別紙申出ノ通リ取計ヒ度此段及申進候也

二年七月九日

大阪府

第 号

時間表ノ通リ毎週月水ノ両日五ヶ時間宛教授嘱托ノ儀別紙申出ノ通リ取計ヒ度此段及申進候也

二年七月九日

大阪府

大臣 東京音樂學校長 殿

總務局 會計局長

廿一年度 第一三九一〇八ノ一

廿一年十一月十三日

本校所藏ノ左記蓄音器用レコード及附屬品ハ不用ニ付別紙目錄ノ通リ處分致度此段及御通牒候也

追テ本通牒ニ對スル御回答ハ來ル十二月末日迄ニ必ス到達スル樣御取計相成度此段申添候也

記

一 蓄音器用レコード 二千百枚

一 附屬品 一式

文書課 要再回 齊 要再回 文保田 文保田 文保田

大臣 東京音樂學校長 殿

總務局 會計局長

廿一年度 第一三九一〇八ノ一

廿一年十一月十三日

本校所藏ノ左記蓄音器用レコード及附屬品ハ不用ニ付別紙目錄ノ通リ處分致度此段及御通牒候也

追テ本通牒ニ對スル御回答ハ來ル十二月末日迄ニ必ス到達スル樣御取計相成度此段申添候也

記

一 蓄音器用レコード 二千百枚

一 附屬品 一式

文書課 要再回 齊 要再回 文保田 文保田 文保田

辞令

一〇〇

辞令

音樂教師ニ雇入ル

月俸金貳拾圓

但シ毎年貳拾圓宛昇給ス

明治十四年十月廿日ヨリ

右辞令ス

十月廿日

庶務掛

Memukuro Gakuin

音樂取調所

校長殿

幹事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Professor Soon

Count Toda
Japanese Legation
Vienna Austria

S. Isawa
Membership
Tokyo Japan

外務省

送第一一三號

在伯林公使館書記官宛

電報左記之通

本官差遣之条、此段申添候也

明治廿一年九月十五日

外務省電信課長 珍田捨己

文部省編輯局長伊澤修二殿

音樂取調所

大臣 東京音樂學校長 閣下

總務局會計局長

二十八年九月十六日

東京音樂學校會計主任書記

凡琴 各種教師 居所之件

本校 凡琴 各種教師 居所 左之通 今般 小石川區 茗荷谷町 第八拾番地ニ、
ローサ、工ル、エフトルデー 氏 轉宅 候間 此段 御屆申上候也

二十八年九月十三日

會計局長 田村 要再回 濟

音樂 要再回 濟

晉

二十八年ノ下ノ月日ハ翌日ノ日附ヲ記入ス

文部省往復 明治二十一年 三四 綴

本限延長モ

copy

Okuma,
Tokio.

伊沢文部省

Chapel master will leave for Japan from Marseilles Sept. 23. Details per mail.

在独公使

Petersburg 13/9/'88 1-40 P.M.
Rec'd 14/.../.. 9-10 P.M.

文部省往復 明治二十一年 第二一六二號

大臣 東京音樂學校長 殿
總務局會計局長 殿

二十一年九月十八日 幹事

東京音樂學校第貳回會計報告

英語教師嚮ニ本校月俸金參拾圓ヲ以テ雇入レ、エストルデー、嚮托シ候處、仰テ裁可ヲ經テ、本人義病氣ニ付、本月末ヲ以テ嚮托解約致度旨申出候ニ付、此段及御通知候也

明治二十一年九月廿日 校長 伊澤修二

裁定ヲ經一年九月十八日

要再回 高

要再回

明治二十一年九月廿日

ナシテ壱ヶ月紙幣三拾円宛也
多ク恐仰有リ度尚又
追而本年度経費中諸手当ハ不足ニ候得共新
招聘外国教師延着ノ為備金ヲ以テ
仮用支弁候処右ハ御承知之通ニ候条
此段モ御含迄ニ申入置候也

二千年十月二日

文部卿 森有礼 印

学務局長 九鬼隆一 殿

学務局長

幹事

英語教師ヂクソン夫人
病死届

英語教師ヂクソン夫人儀病気ニ付
八十二年三月中ニ帰国ノ為メ
ヲ以テ日本金三百円
御手間ニ成ル可ク速ニ
御渡シ被成度此段
申入候也

二千年十月二日

文部卿 森有礼 印

東京大学教授 嘱託
英国人 ヘンリー・ダイアー

トシテ毎月紙幣三拾圓宛ヲ
支給仰付被
候事

明治十年十一月廿五日

太政大臣 三條實美

音樂取調所

樂器ノ儀ニ付テハ
教師ヨリ申立候ニ付
シバシト申ス儀ニ付
左ノ通相心得
可申事

十年十一月廿五日

音樂取調掛

兩三日ヲ待テ樂器
ノ配慮ニ取掛リ
ト申來ル者モ
無之ハ
御催促ノ書面
ヲ以テ
御催促有之度
尤一日ヲ
延ス
事ハ
不相成
候事

十年十一月廿五日

音樂取調掛

樂器ノ儀ニ付テハ
教師ヨリ申立候ニ付
シバシト申ス儀ニ付
左ノ通相心得
可申事

十年十一月廿五日

音樂取調掛

兩三日ヲ待テ樂器
ノ配慮ニ取掛リ
ト申來ル者モ
無之ハ
御催促ノ書面
ヲ以テ
御催促有之度
尤一日ヲ
延ス
事ハ
不相成
候事

十年十一月廿五日

音樂取調掛

演奏ヲ
以テ
御催促
ノ節
ハ
御催促
ノ
書面
ヲ
以テ
御催促
ノ

音樂取調所

第二八号

校長
殿

今年十月十二日

別記ノ漢國人今般本校音樂教師トシテ雇入タル
ニ付
四日本邦ニ到着ニ付テハ速ニ御免状御渡相成度
此段及御届候也

漢國人ルードルフ、ダットリヒ

外務省直轄

年月日

音樂取調所
長 林

外務省免許

追テ同人儀ハ京橋區木挽町二丁目番地精養軒ニ
止宿致居候条此段申添候也

音樂取調所

姓名　ヲーユトリアー國ヴィアナ府市民
　　ルドルフ、ヂュトリヒ
Rudolf Dittrich
年　二十八年
妻　ペリー、ヂュトリヒ
Perie Dittrich
年　二十二年

音樂

文部省往復 第二六七九號

裁定ヲ一年十二月一日

三日附ヲ以テ

東京音樂學校長

大臣

伺

專門學務局長

會計局長

音樂教師雇入ノ件

今般樂園ヨリ本校音樂教師招聘ノ儀ニ付別紙第九七號ノ通リ回答維持ノ義ニ付テハ條約取結ノ上ハ戸田全權公使ヨリ申越ニ付即チ取調ノ上ハ左條約ノ通リ帝國音樂學校ノ教師（アルチスチック・デレクトール）ヲ雇入ル

二千年十二月十三日

會計係

音樂學校

裁定ヲ一年十二月一日

秘書

各庁ノ一部ヲ

東京音楽学校長ヨリ

二千五年十月十三日

庶務係

各庁ノ一部ヲ

会計係

秘書

要再閲

濟

編纂局長

専門学務局長

会計局長

音楽教師雇入條約取調ノ件

一般楽園ヲ以テ本校音楽教師招聘ノ儀ニ付

紙第九十号照会ノ通リ同国雇入ノ

ノ條約取結ノ際戸田全権公使ヲ

取調ノ如ク左條約書第一條ノ

ノ二ヲ帝国音楽学校ノ教師（ドイツ人ヲ云フ）トシテ雇

入ルヽヿ

秘

部

第

号

ト有ラサル旨ヲ書面ヲ以テ答弁シ尚ホ右ハ當ヲ
中ニハ無之各林ヲ以テ他ニ稍不穏當ヲ存ス共ニ百席
数師トシテ取扱ヒ事ニ相成リ度旨歌
有之候間布歌
又同年二條ニ
「ハードルフ、ヂリソトリヒ君ハ維因ヨリ東京ニテ自身
及ヒ其ノ妻ノ病費ヘトシテ約銀貸一千三百圓
ヲ受取ルベシ」
ト有之右ハ當初君ハ六百五十圓ニ有之
ヒ君ハ戸田公使ヨリ申牒ニ據レハ是亦不得止儀
ト存候ヒ右豫算不足ノ分ハ他科目ヨリ
流用支弁ヲ見込ヲ以テ
又同第十一條ニ
ト有之是亦戸田公使申牒ニ次第不得止儀
存候間置可相成歟
右相伺ヒ也

「ハードルフ、ヂリソトリヒ君ハ其ノ妻ノ前ニ約シ討銀貸
七百圓ノ前拂ヲ得ベシ但此前金ハ月割ヲ以
テ毎月金百圓ヅヽ引去ルベシ」
ト有之是亦戸田公使申牒ニ次第不得止儀
存候間置可相成歟
右相伺ヒ也

兼テ稟申有之候澳國ヨリ貴校ヘ雇入ルベキ音樂
教師ニ儀ニ付今般在澳國戸田公使ヨリノ書面相添
澳國人チットリヒ雇入ノ條約書外務省ヨリ廻送有
之候付乃別紙貳通及廻送致候右條約書之儀ハ貴
校ニ於テ尚取調何分申出相成可然候此段申進
候也

明治廿一年十一月九日

文部省總務局長辻新次

東京音樂学校長伊澤修二殿

文部省

文部省總務局長之印

東京音楽学校音楽教師一名御招雇相成度儀本年総第四十二号ヲ以テ御来示ニ趣ニ據リ右招雇方在澳國本邦公使ヘ訓令ニ及置候処今般全國音楽教師「デットリヒ」ナル者雇入候義承極メ條約相結ヒ候趣全公使ヨリ別紙ニ通申出候ニ付右寫差進候右申進候也

明治廿一年十一月六日

外務大臣伯大隈重信

文部天臣子森有禮殿

文部省

東京音楽学校音楽教師一名御招雇相成度儀本年総第四十二号ヲ以テ御来示ニ趣ニ據リ右招雇方在澳國本邦公使ヘ訓令ニ及置候処今般全國音楽教師「デットリヒ」ナル者雇入候義承極メ條約相結ヒ候趣全公使ヨリ別紙ニ通申出候ニ付右寫差進候右申進候也

明治廿一年十一月六日

外務大臣伯大隈重信

文部天臣子森有禮殿

文部省

文部大臣ヨリ東京音楽学校ヘ諮詢ノ件

明治二十一年十一月六日

音楽取調掛ヲ廃シ更ニ音楽学校ヲ設置スルノ議ニ付テハ
別紙ノ通リ諮詢ス

文部大臣 森有礼

諮詢書

音楽取調掛ヲ廃シ更ニ音楽学校ヲ設置スルノ議ニ付テハ
左ノ事項ニ関シ意見ヲ具申スヘシ

一 学科ノ事

一 教員ノ事

一 生徒ノ事

一 学校ノ組織ニ関スル事

一 学校ノ位置ニ関スル事

一 学校ノ経費ニ関スル事

一 其他学校ニ関スル一切ノ事

東京音楽学校

第四号

本年三月十日付ヲ以テ音楽学校ヘ諮詢ノ件ニ関シ
貴意ノ通リ音楽教師一名月俸金ニ百円以上ヲ以テ二年間ノ
雇入ヲ為シ度ニ付テハ右ニ対スル履歴書ヲ添付シ
メルスベンガ氏ヲ雇入ルヘキ旨申越ニ付テハ
音楽教師ノ義ハ何分適当ノ
月ノ時日ヲ費ヤシ
ヲ以テ教師チフトリー氏ヲ雇入ル
国ニテモ
ヲ一通リ
「コンサルバトリー」ニ於テ

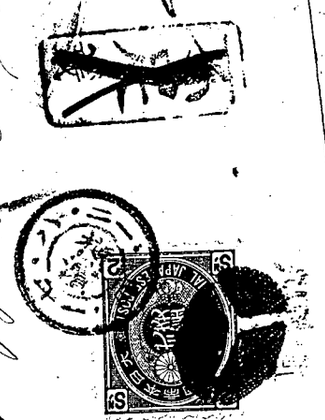
絶ナル元金ヲ保証スヘキ事ノ者仕出シ帰国ノ行リ雲シ多額ノ費
ヲ要スル事ナキ事（第十条）
旅行費記載ニ言ヒ旅行ノ割合ニ於テ増減ヲ為スヘキ事
一ノ旅行ノ割合ニ於テ又ハ一ノ年ニ於テ増減ヲ為スヘキ事
ヲ為ス事ヲ得ス
第六条　教師ノ雇入ハ一年ヲ以テ期トス但シ双方ノ協議ヲ以テ
之ヲ延長スルヲ得ヘシ
第七条　教師ハ毎年九月ヲ以テ学期ノ始トス
学期ノ始ニ於テ教師ヲ変更シ又ハ解雇セントスルトキハ其
ノ学期ノ終ニ於テ之ヲ為スヘシ
第八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第六十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第六十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第六十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第六十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第六十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第六十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第六十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第六十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第六十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第六十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第七十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第七十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第七十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第七十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第七十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第七十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第七十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第七十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第七十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第七十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第八十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第八十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第八十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第八十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第八十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第八十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第八十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第八十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第八十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第八十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第九十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第九十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第九十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第九十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第九十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第九十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第九十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第九十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第九十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第九十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百二十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百二十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百二十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百二十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百二十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百二十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百二十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百二十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百二十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百二十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百三十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百三十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百三十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百三十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百三十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百三十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百三十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百三十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百三十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百三十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百四十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百四十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百四十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百四十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百四十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百四十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百四十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百四十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百四十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百四十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百五十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百五十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百五十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百五十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百五十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百五十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百五十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百五十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百五十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百五十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百六十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百六十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百六十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百六十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百六十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百六十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百六十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百六十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百六十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百六十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百七十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百七十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百七十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百七十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百七十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百七十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百七十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百七十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百七十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百七十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百八十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百八十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百八十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百八十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百八十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百八十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百八十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百八十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百八十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百八十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百九十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百九十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百九十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百九十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百九十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百九十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百九十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百九十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第百九十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第百九十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百二十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百二十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百二十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百二十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百二十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百二十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百二十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百二十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百二十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百二十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百三十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百三十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百三十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百三十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百三十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百三十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百三十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百三十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百三十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百三十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百四十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百四十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百四十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百四十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百四十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百四十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百四十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百四十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百四十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百四十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百五十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百五十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百五十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百五十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百五十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百五十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百五十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百五十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百五十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百五十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百六十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百六十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百六十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百六十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百六十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百六十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百六十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百六十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百六十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百六十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百七十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百七十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百七十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百七十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百七十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百七十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百七十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百七十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百七十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百七十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百八十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百八十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百八十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百八十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百八十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百八十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百八十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百八十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百八十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百八十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百九十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百九十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百九十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百九十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百九十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百九十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百九十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百九十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第二百九十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第二百九十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百二十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百二十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百二十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百二十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百二十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百二十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百二十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百二十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百二十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百二十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百三十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百三十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百三十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百三十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百三十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百三十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百三十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百三十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百三十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百三十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百四十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百四十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百四十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百四十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百四十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百四十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百四十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百四十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百四十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百四十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百五十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百五十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百五十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百五十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百五十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百五十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百五十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百五十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百五十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百五十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百六十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百六十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百六十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百六十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百六十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百六十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百六十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百六十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百六十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百六十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百七十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百七十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百七十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百七十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百七十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百七十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百七十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百七十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百七十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百七十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百八十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百八十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百八十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百八十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百八十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百八十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百八十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百八十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百八十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百八十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百九十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百九十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百九十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百九十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百九十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百九十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百九十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百九十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第三百九十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第三百九十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百二十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百二十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百二十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百二十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百二十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百二十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百二十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百二十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百二十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百二十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百三十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百三十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百三十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百三十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百三十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百三十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百三十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百三十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百三十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百三十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百四十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百四十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百四十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百四十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百四十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百四十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百四十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百四十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百四十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百四十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百五十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百五十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百五十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百五十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百五十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百五十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百五十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百五十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百五十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百五十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百六十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百六十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百六十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百六十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百六十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百六十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百六十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百六十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百六十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百六十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百七十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百七十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百七十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百七十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百七十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百七十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百七十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百七十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百七十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百七十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百八十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百八十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百八十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百八十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百八十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百八十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百八十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百八十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百八十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百八十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百九十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百九十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百九十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百九十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百九十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百九十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百九十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百九十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第四百九十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第四百九十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百十条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百十一条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百十二条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百十三条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百十四条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百十五条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百十六条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百十七条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百十八条　教師ハ毎年十月ヲ以テ休暇トス
第五百十九条　教師ハ毎週日曜日ヲ以テ休業トス
第五百二十条　教師ハ

38

修

東

Mr. K. Iwata
Director of the Park.
Ueno Park.
Tokio.



Légation du Japon
à Vienne.

Zwischen der kais. japanischen
k. u. k. Gesandten und bev. Minister Grafen Hoyos,
handelnd im Namen und Auftrag der kais. ja-
panischen Regierung, einerseits und dem
Kapellmeister Herrn Rudolf Dittrich aus Wien
andererseits ist heute nachstehender Vertrag ab-
geschlossen worden:

1. Herr Rudolf Dittrich wird vom
1. November 1888 an bis zum 1. September 1891
als violinischer Direktor für die kais. Musik-
Schule in Tokio engagirt und verpflichtet sich
während dieser Zeit den Zöglingen der ge-
dachten Anstalt Unterricht im Violinspiel,
in der Harmonie- und Compositionslehre,
sowie im Chorsang im Allgemeinen zu ertheilen.

2. Herr Rudolf Dittrich erhält zur Be-
streitung der Kosten der Reise von Wien
nach Tokio für sich und seine Frau den Betrag
von Dreihundert Silber-Yen.

3. Herr Rudolf Dittrich bekommt vom
1. November 1888 an ein monatliches Gehalt
von Dreihundert fünfzig Silber-Yen, welches
am Letzten jedes Monats zur Auszahlung

gebraucht wird. Für Krankheit eines Monats wird verhältnismäßiger Teil des Gehalts nach Tagen pro rata des Monatsgehalts berechnet.

4. Herr Rudolf Dittrich bekommt während seines vertragsmäßigen Urlaubs im Jahr monatlich dreißig Silber- Mark Wartegeld.

5. Herr Rudolf Dittrich ist nicht verpflichtet mehr als 5 Stunden täglich Unterricht zu geben. Er ist nicht gehalten an den Sonntagen Unterricht zu geben.

Der ~~Schulvorsteher~~ Direktor des kais. Musikchors bleibt das Recht gewahrt, den Stundenplan für den Unterricht festzusetzen.

6. Herr Rudolf Dittrich hat das Recht jederzeit seine Obliegen über Unterrichtsangelegenheiten den Direktor des kais. Musikchors bekannt zu geben; letzterem bleibt aber das Recht der Entscheidung vorbehalten.

7. Wenn Herr Rudolf Dittrich krankheits-

selben innerhalb seiner ordentlichen Lehrzeit
seiner ordnungsmäßigen Lehrpflichten
nicht nachkommen kann, so wird bei Krank-
heit für den Krankheit ihm nach 40. Tage ein
Viertel seines Gehalts abgezogen.
Wenn die Krankheit innerhalb
dreißig Tage ausfällt und Herr Rudolf Ullrich
während dieser Zeit seinen ordnungsmäßigen
Obliegenheiten nicht nachkommen kann, so
wird dieser Vertrag als aufgelöst betrachtet
und nach 90. Tage an die Gehaltszahlung gänz-
lich eingestellt.

8. Wenn Herr Rudolf Ullrich aus gesetz-
lichen Gründen den Vertrag vor Ablauf
der ordnungsmäßigen Zeit auflösen
möchte, so hat er dies Absicht mindestens
acht Wochen vorher dem Direktor der kais.
Musikschule bekannt zu geben. In diesem
Fall wird die Gehaltszahlung nach Tage der
Vertragsauflösung eingestellt.

9. Wenn die kais. sächsische Regierung aus
einem wichtigen Grunde diesen Vertrag
vor Ablauf der ordnungsmäßigen Zeit auf-

zulässig wünscht, so wird Herr Rudolf Dittrich die dreimonatliche Kündigung oder Entschädigung.

10. Falls diese Vertrag nach Ablauf nicht verlängert wird und im Falle der Vertrags-Auflösung in Gemässheit der Art. 8 und 9 wird dem Herrn Rudolf Dittrich zur Sicherstellung der Kosten der Rückreise für sich und seine Frau der Betrag von 1300 - dreizehnhundert - Silber-Yen gewährt.

11. Herr Rudolf Dittrich verpflichtet sich seiner Obrigkeit einen Vorschuss im Betrage von sechshundert Silber-Yen, welcher in 36 - sechsunddreissig Yen von seinem Gehalte in Tokio in Abzug gebracht werden wird.

Wien, 13. September 1888.

LEGATION DU JAPON A VIENNE 日本公使館之印

Comte Toda,

Rudolf Dittrich

This Contract is renewed for the three (3) years from the 2nd Sept. 1891 A.D. to the 1st Sept. 1894 with the following amendments:

1st The said Mr. R. Dittrich shall receive per month a salary of three hundred and seventy five (375.) yen in Japanese silver money during the first half term (the first eighteen months from the 2nd Sept. 1891) and four hundred (400.) yen in the same money during the 2nd half term (the second eighteen months) to be paid at the end of each month.

2nd The said Mr. R. Dittrich shall receive one thousand and three hundred (1300.) yen in Japanese silver money as his traveling expense in the case stated in the tenth Art.

3rd All other respects remain in the same conditions as before except all points which are contradictory to the above amendments

6th August Meiji 24 (1891)

S. Kodzu

Rudolf Dittrich

條約全譯文

文部省藏書

勅令第百八十四號

樞密顧問官ノ職務ニ關スル件

樞密顧問官ハ樞密院ニ於テ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

日本帝國特命全權公使戸田伯日本帝國政府ノ
嘱托ニ依リ、其名義ヲ以テ、第一方ニ在リ音樂指
揮者（Kapellmeister）維因府ノ人「ルードルフ、ヂゲットリヒ」
君第二方ニ在リ其間ニ本日左ノ條約ヲ結定
ス

第一條、「ルードルフ、ヂゲットリヒ」君ハ一千八百八十
八年十一月一日ヨリ一千八百九十一
年九月一日マテ東京ニ於ケル帝國音
樂學校ノ技術監督者（アルテスチッシェル、ディレクトル）トシテ傭入ラレ

[illegible]

外務大臣伯爵大隈重信殿

右期限間此學校生徒ニバイオリン樂和
聲學作曲法並ニ一般唱歌ノ教授ヲ為
スノ義務ヲ負擔ス

第二條　ルードルフ、ギムトリヒ君ハ維困ヨリ東京
マデ自費及ビ其妻ノ旅費トシテ總計
銀貨一千三百円ヲ受取ルベシ

第三條　ルードルフ、ギムトリヒ君ハ一千八百八十
八年十一月一日ヨリ始メテ月給銀貨
參百五十円ヲ受取ルベク其払渡ハ毎
月末日トス若シ又一月ヲ分割スベキ
場合ヲ生ズル時ハ月俸ノ割合ニ從ヒ
日割ヲ以テ計算ス

第四條　ルードルフ、ギムトリヒ君ハ條約ニ依リテ
東京ニ滞在スル間ハ住宅費補償トシ
テ毎月銀貨參拾円ヲ受取ルベシ

第五條　ルードルフ、ギムトリヒ君ハ毎日五時間以
上教授ヲ擔任スルノ義務ナク又夏期
閒教授ノ為メ在校ヲ要セラルヽ時間表ヲ確定スルノ權
カルベシ
教授ニ關スル時間表ヲ確定スルノ權

ハ帝國音樂學校長ニ屬ス

第六條　ルードルフ、デイットリヒ君ハ何時ニテモ教授上ノ疑問ニ關シ其意見ヲ帝國音樂學校長ニ告知スルノ權ヲ有ス然レトモ其採否ヲ決定スルノ權ハ帝國音樂學校々長之ヲ保有ス

第七條　ルードルフ、デイットリヒ君疾病ニ罹リ四十日間絶ヘダ引續キテ其條約上ノ義務ヲ遵守スル能ハザル時ハ本條約ハ解除セラルルモノト看做シ第九十日目ヨリ以後其疾病継続間ハ其俸給ノ四分ノ一ヲ受取ルヘシ、又若シ疾病絶ヘ續シテ九十日ニ及ビ其時期間ルードルフ、デイットリヒ君其條約上ノ義務ヲ遵守スル能ハザル時ハ本條約ハ解除セラルルモノト看做シ第九十日目ヨリ以後ハ全ク俸給ノ支拂ヲ廢止ス

第八條　ルードルフ、デイットリヒ君自己ノ事故ヨリ前ニ本條約ノ解除ヲ望ム時ハ少クトモ未ダ條約期限ノ經過シ終ラザル

モ八ケ月前ニ其旨ヲ帝國音樂學校長ニ告知スベシ、此場合ニ於テハ本條約ノ解除ノ日ヨリ俸給ノ支払ヲ廢止ス

第九條　日本帝國政府ガ顯著ナル事故ヨリシテ未ダ條約ノ期限ノ經過シ終テザル前ニ本條約ヲ解除セントヲ望ムトキハ「ルードルフ、ゲッツトリヒ」君ハ補償トシテ三箇月分ノ俸給ヲ得ベシ

第十條　本條約ノ期限終ヲシテ備緒ニナラザル場合又ハ第七條及ヒ第九條ニ適合シテ本條約ヲ解除シタル場合ニ於テハ「ルードルフ、ゲッツトリヒ」君ハ自身並ニ其妻ノ歸國旅費トシテ總計銀貨一千三百円ヲ受取ルベシ

第十一條　ルードルフ、ゲッツトリヒ君ハ其出立前ニ總計銀貨七百円ノ前拂ヲ得ベシ但シ此前金ハ月割ヲ以テ毎月金百円ヅヽ其俸給中ヨリ東京ニ於テ引去ラルベシ

一千八百八十八年九月十三日

維因府ニ於テ

音樂取調所

校長ノ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

樂友調所

ラ訣授教授ニ係事ヲ但同氏ハ千八百七十八
維也納音樂院ニ入學同ハ十二年同院ヲ卒業
資格ヲ得ハ十二年ハイオリン科一等賞牌ヲ
ル琴科一等賞牌ヲ受ケ十八年ハ十二年ノ
ル降職ヲローチェーンド男爵ノ樂官ニ奉シテ教
ル地納音ニ於ケル音樂教授ヲ嘱セラレシ人ナリ

東京音樂學校印

ディットリヒ履歴書

財

~~Visiter~~
frequenter the Viennese Conservatory
from 1878 — 1882. In Violin — Director
professor Hellmesberger, in Organ — prof.
Bruckner, Piano — Prof. Schenner
Harmony — Counterpoint — Composition
— Prof. Bruckner and Prof. Krenn

1880 — 2. Price Medaille in Violin
1882 — 1 ——————(—)—————
1882 — 1 ——————(—) in Organ.

Diploma and a large Medaille of
Silver for the excellent finishing
of the studies.

from 1882–83 Salzer.

" 1883 — my comp. movement of Baron Roppa
— 1884–86. England and organist in the reformed
jews-temple in [illegible]

Member of the Quartor — performance
of Director Hellmesberger, the first
imperial Chief d'orchestra;
as an player in the celebrated concert
of the „Musikverein" under the
direction of Hans Richter
and of the Concerts of the „Männer-
gesangverein".

Very often teacher in the
Conservatory for work / composers

所調取樂音

曾テ東京音樂學校ニ於テ招聘セラレ音樂教師濱尾雄ノ兩人ハルドんフ、チットリヒ氏ハ九月二十二日仏國ヲ發シ十一月四日本邦ニ着シ新橋ニ寓スル訣校教授ニ從事セリ但同氏ハ千八百七十八年同校ヲ辭シ維也納音樂學校ニ轉任セん音樂學校ニ於テハ千八百八十年同校ヲ辭シ獨逸國ライプチヒ學校ニ轉任セん同校ニ於テハ千八百八十二年同校ヲ辭シ又佛國パイオリン科一等賞牌ヲ受ケ又パイオリン科二等賞牌ヲ受ケ又

文部省

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一千八百八十八年十一月一日ヨリ

校雇教師

東京音樂學校

改正條例文

日本帝國特命全權公使
托ニ依リ其名義ヲ以テ
（雖国府ノ人「ルードルフ、ヂットリヒ」君ハ
二方ニ在リテ其間ニ本日左ノ條約ヲ結定ス
第一條　ルードルフ、ヂットリヒ君ハ一千八百九十一年九月一日ヨリ一千八百
拾ケ年ノ間帝國音樂校ノ教師（ルードルフ、ヂットリヒ）ニ「バイオリン」樂、和
ラレ右期限間此學校ノ教師ニ「バイオリン」樂、和
聲學、作曲法、第二一般唱歌ノ教授ヲ專ラ
校ノ技術監督者トシテ庸ヒ

一千八百九十八年十一月一日ヨリ東京音樂學
校雇教師

文部省

第二條　ルードルフ、ゲットリヒ君ハ維持ヨリ東京ニテ自身及ビ其妻ノ旅費トシテ總計金貳千圓ヲ受取ルベシ

第三條　ルードルフ、ゲットリヒ君ハ一千八百八十八年十月一日ヨリ始メテ毎月金拾圓ノ割合ヲ以テ毎月末日ニ之ヲ受取ルベシ

第四條　ルードルフ、ゲットリヒ君ハ維持ヨリ東京ニテ自身及ビ其妻ノ旅費トシテ總計金貳千圓ヲ受取ルベシ

第五條　ルードルフ、ゲットリヒ君ハ毎月五時間ヲ上限トシテ教授ヲ擔任スルノ義務ヲ負フ

第六條　ルードルフ、ゲットリヒ君ハ何時ニテモ教授上ノ疑問ニ關シ其意見ヲ帝國音樂學校ニ告知スルノ權ヲ有スト雖モ其採否ヲ決定スルノ權ハ帝國音樂學校ニ屬ス

第七條　ルードルフ、ゲットリヒ君ハ維持ヨリ東京ニテ自身及ビ其妻ノ旅費トシテ總計金貳千圓ヲ受取ルベシ

第八條　ルードルフ、ゲットリヒ君ハ一千八百八十八年十月一日ヨリ東京ニ滞在スル間ハ住宅費ト雖モ銀貨參拾圓ヲ毎月ヲ受取ルベシ

第五條　ルードルフ、ゲットリヒ君ハ毎日五時間ヲ上限トシテ教授ヲ擔任スルノ義務ヲ負フ又夏期間教授ノ有ル在校ヲ要セラルルコトナカルベシ

第六條　ルードルフ、ゲットリヒ君ハ何時ニテモ教授上ノ疑問ニ關シ其意見ヲ帝國音樂學校ニ告知スルノ權ヲ有スト雖モ其採否ヲ決定スルノ權ハ帝國音樂學校ニ屬ス

一千八百八十八年十一月一日ヨリ東京音樂學校

教師

スルノ権ハ帝国音楽学校々長之ヲ保有
ス

第七條　ルードルフ、ギョトリヒ君疾病ニ罹リ四十日
間絶ヘズ引続キテ其職ヲ執ル能ハザル時ハ第四十日目ヨリ以後其疾病
継続間ハ其俸給ノ一ヲ受取ルヘシ若
シ疾病絶ヘズ引続シテ九十日ニ及ビ其時期
間ルードルフ、ギョトリヒ君其職務ヲ遵
守スル能ハザル時ハ本條約ノ義務ヲ遵
ト看做シ第九十日目ヨリ以後ハ全ク俸給ノ

支拂ヲ廃止ス

第八條　ルードルフ、ギョトリヒ君自己ノ事故ヨリシテ
未タ條約期限ノ経過ニ終ラザル前ニ本條約ノ
解除ヲ望ム時ハ其旨ヲ帝
国音楽学校長ニ告知スベシ此場合ニ於テハ條
約解除ノ日ヨリ俸給ノ支拂ヲ廃止ス

第九條　本帝国政府ガ顕著ナル事故ヨリ
シテ未タ條約期限ノ経過ニ終ラザル前ニ本條
約ヲ解除センコトヲ望ム時ハルードルフ、ギョトリヒ君
ハ補償トシテ二箇月分ノ俸給ヲ得ベシ

一千八百八十八年十一月一日ヨリ東京音楽学校

校雇教師

東京音楽学校

第十條　本條約ノ期限終了シテ後猶ニケ年間
合又ハ第七條及ビ第九條ニ適合シテ本條約ヲ
解除シタル場合ヲ除クノ外日本帝國ハ其ノ妻ノ帰國旅費トシテ給料額ノ
一千三百圓ヲ受取ルベシ
第十一條　ルードルフ、ギットリヒ君ハ其ノ妻ノ前ニ逝計
銀貨七百圓ノ前拂ヲ得ベシ但シ此前金ハ月
割ヲ以テ毎月金百円ヲ其俸給中ヨリ東京
ルードルフ、ギットリヒ

一千九百九十九年九月十一日

一千八百八十八年十一月一日ヨリ東京音樂學校雇教師

維納府ニテ

戸田伯爵

ルードルフ、ギットリヒ

東京音樂學校

履歴書

澳國人

一千八百七十八年維也納府音樂院ニ入學
ルドルス、ヂットリヒ

一千八百八十年同院ニ於テバイオリン科ニ等賞牌
ヲ得

同八十二年同院卒業

同八十二年バイオリン科一等賞牌及ビ金牌ヲ得タリ

同年ヨリロー生ールト男爵ノ樂官職ヲ奉ス

一千八百八十八年十一月一日ヨリ東京音樂學
校雇教師

姓名	ルドルフ、ヂットリヒ Rudolph Dittrich
本籍	オーストリア国ヴィナ府市民
年齢	一千八百八十八年 二十八年
學位 旧職業	プロフェッソル、オフ、ミュジク 音樂教師
妻	ペリン、ヂットリヒ Perine Dittrich
雇所	東京音樂學校
雇入手續	本省より照會ニ付有之

未航旅費、帰國旅費　銀貳千二百圓ヲ
但本人及妻共
雇入年月及期限　明治廿一年十月一日ヨリ明治廿
月俸　廿四年九月一日ヨリ
住所　銀貳百五十圓
東橋通米屋町二十番地
精養軒

紙ヲ以テ通常領事ニ於テ雇入ノ證書ヲ與フルヲ要ス
豊器ニ雇ヒ外國人ニ在テ期限等ヲ
届出ル相手方都テ同府ヘ通牒商議
之上其妻モ第三ノ届出ヲ以テ知ラシム
其子女モ他国ニ居ル人ヲ雇ヒ入ル
月ノ間ト雖モ越権ノ届出ヲ要ス
明治二年十月之日　文部省

雇入書渡證

追テ雇外國人ニ在テ同府ニ居ル人ヲ
雇ヒ入ル時ハ明治九年内務省乙第二号
違シ次第ヲ以テ其手続ヲ為ス可キ事
相渡ス為念此段申添ル

53

紙写し通 東京府
豊多摩郡 雇外國人國
八百屋町 相澤都吉同
之高 妻モ 第三 届
其子女 名 同居人等
月四圓ノ上 ノ 越
明治三十年二月 日

又 部省 勤

来航旅費、帰國旅費
但 自身及妻共
雇入年月及期限
月俸
住所

澳國維也納府駐在 一等
紹介
銀貳千二百圓ヲ
銀貳千二百五十圓
東京府下麻布区飯倉片町二十番地
精養軒

外國人居留地ニ居住スル外國人氏名居住所及同居人有之トキハ其氏名ヲ通知相成度此段及通牒候也

明治三年十月十三日

東京府

追テ外國人氏名ハ横文字ヲモ以テ書加ヘ相成度
且同居人ノ儀モ其國名氏名男女別等
記載相成度事

文部省

音樂取調所

音第五〇庵

二十一年十二月十七日

大臣 東京音樂學校長 殿

總務局長 (印影)

會計局長 (印影)

(裁定廿一年十二月廿七日)

(保田)

(島)

(齋藤)

(要再調)

(要再調)

(三浦)

英語教師嘱托満期相成度ノ件

本校嘱托英語教師チクソン夫人儀本月廿九日限嘱托満期相成度尚ホ今般更ニ来廿一年一月一日ヨリ同三月三十一日マデ毎週月水金三日午前二時間ヅヽ教授嘱托致為相成様取計度此段及稟申候也

(保田)

明治廿年分

外國人關係書類

一　ソーブレー事勿論ノ件上申

二　ソーブレー氏解雇ノ件上申

三　ヂットリヒ氏樂器並海員共ノ件上申
　　口明ケノ

四　当時雇入ノ者ニ付テハ其ノ人ニ適セサル者ハ解雇ノ件
　　上陸ニ付テハ警固ノ者ヲ付スル件

五　同伐ニ付テハ警固ノ者ヲ付スル件

六　ヂクソン夫人解雇ノ件上申

七　ヂットリヒ氏ニ対シ樂器ノ件

東京音樂學校圖書

辞表

私儀
校長の
職ノ
本校
本年
本月限
以
辞
解
候
也

昭和
年
月
日

(A)

保護者
住所
氏名
印

昭和
年
月
日

西陣高等学校
校長

(This will be written on a large paper)

Tōkyō Academy of Music

Japan.

This certifies that Prof. J. Sauvlet (Seal of the Academy) of Holland has been in the employment of the Academy from 188 , to January of 1889, and discharging his duties very satisfactorily and efficiently has given much progress to the pupils of the Academy. of which he may rightly be called the founder.

In testimony whereof, the Director of the Academy has affixed his signature and seal, this ninth day of the first month in the twenty second year of Meiji. (January 9th 1889)

Shuji Isawa
Director (Official Seal.)

音楽取調掛

Pay to the order of
No. 81 Broadway
Cashier

文部省

十月廿日届

奉職之儀ニ付願

校長ノ

辞事ハ

ソーフレット雇満期解雇ニ申渡

本校傭托教師ソーフレット儀ハ廿一年九月廿日ヲ以テ

其本日限リ傭托

年月日

廿六年一月十日

Tokyo Academy of
Music.
Jan 10, '89

Dear Prof. Sawada:

As I communicated you by the last letter, I have much pleasure to send you herewith the said certificates, and when you have got it - please write me directly.

Yours very truly
S. Isawa
Director.

文部省

横濱税関長 殿

横濱税関長 布目武敏

文部省

横濱税関長 殿

横濱税関長 布目武敏

第二の学
師技教師奥忍人ルードルフ、チットリヒ氏ヲシテピア
ノ旅ヘ税免除ノ改正了承セシメ尚ホ今七月ヨリ施行ノ筈ナリシ
税ノ件ハ猶ホ一年延期セラルル云々ノ報
至比取及ヒ両学年ノ業ヲ採点了セシ為メ成績
明治三十二年一月十日
東京音楽学校長伊澤修二殿
校長印

会計課 第二〇號

大臣
総務長官
東京音樂学校長

会計局長 ㊞

十二、四月十五日

㊞用度課長
出納課 ㊞

東京音樂学校雇外國人教師俸給ノ棟ノ荻昌吉水野九郎ノ両名ニ対シ別紙契約ノ通リ何時ニテモ解雇スルコトヲ得ル旨申渡ス

此契約ハ今般宿舎建築ニ付キ之ニ準ジ別紙契約ノ通リ会計局長ト保管ニ関スル書類ヲ取交ハシタルニ依リ会計局長ト保管ニ関スル書類ヲ取交ハシタルニ依リ

㊞

收納部

62

記

文部省直轄東京高等師範學校雇外國人
教師傭使說
一 契約千
右正ニ領収セリ
明治二十二年四月十二日 水野九郎印

文部省會計局長久保田譲殿

文部省直轄第一高等中學校生徒寄宿舍建
築契約書第十一條ニ基キ文部省直轄東京音
樂學校雇外國人教師館ヲ棟ヲ萩昌吉水野九
郎ニ建築セシメ借用スル二付萩昌吉水野九
貸主トシ文部省會計局長久保田譲ヲ借主トシテ
契約ヲ結フコト左ノ如シ

第一條　貸主ハ教師館壹棟ヲ第一高等中學
校接續地本郷向ケ岡彌生町（瞻望ノ場）ニ私有地内ニ
於テ文部省ノ指揮ニ從ヒ建築スル事

第二條　教師館建築圖按及仕樣等ハ豫メ貸主
ヨリ文部省ノ承諾ヲ受ケタル上工事ヲ實施ス
ル事

但文教師館ノ坪數等並ニ建築費ノ目途金左

惣建坪五拾七坪八合八勺
内
二拾五坪貳合四勺　二階建
貳拾貳坪六合四勺　平家建
外車置場車夫溜厠六坪五合平家ニテ建設ヲ要ス

放即館最寄ノ場所ニ井戸壱個ヲ要ス
放即館ニ要スル相當ノ敷地ヲ供スヘシ
建築費金三千圓
第三條　放即館建築落成ノ上貸主ヨリ借主ヘ引渡シタル當月ヨリ借家料トシテ前條ニ記載セル金額ノ内ヘ金壱千圓（壱割ニ相當スル金額ヲ減ス）ヲ以テ東京音樂學校ヨリ貸主ニ相拂フ事
但建築落成ニ至ル迄ノ間ハ日割ヲ以テ相拂フ事
第四條　貸主ハ此貸借期限間放即館並ニ敷地ノ修繕ハ勿論之ニ附帶スル一切ノ義務ヲ擔當スル事
但窓硝子戸障子圍炉裏ノ取替及敷物ノ修繕ハ東京音樂學校ニ於テ擔當ス
第五條　貸借期限間ハ双方ニ於テ建物並ニ敷地ノ形狀ヲ変更スル事ヲ得サル事

但東京倉庫業者ニ於テハ不得止場合アルトキハ賃
主ニ協議ノ上館内ノ模様替其他ノ建増等ヲ為
スヲ得ル事

第六條　賃主ハ教師館敷地ニ接續スル其他何地
ニ打テ衛生及風俗ヲ害スヘキ業ヲ創設スルヲ得サル
事

第七條　教師館ノ内外ニ於テ及敷地ノ掃除下水ノ浚
渫庭樹ノ培養ハ教師館住居ノ外国人ニ於テ擔當ス
ル事

第八條　教師館建築落成ノ上賃主ヨリ借主ヘ
引渡シタル當月ヨリ明治二十四年九月一日迄ヲ
賃借期限トシ此契約ヲ解除ス可キ事
但賃借期限ノ終リシ後尚継続賃借セントス
ル時ハ双方協議ノ上更ニ契約ヲ締結スルモ
ノトス

第九條　教師館其他付属建物水火風震等ノ災
害ニ罹リ焼失又ハ毀壊シタルトキハ賃主ノ損失ニ
シテ借主ハ其責ニ任セサル事

第十條　此契約書中ニ記セサル條件ハ一般ノ
習慣ニ依リ賃主又ハ借主ニ於テ執行フ事

右條々ノ如ク双方協議契約セシニ付其確實ナル
ヲ證スル為メ本書面通ヲ作リ各自名ヲ記シ印
ヲ以テ双方ニ交換シ置クモノナリ

明治二十三年四月　日

賃主

萩 昌吉 印
牛込区市谷加賀町壱丁目二番地

借主 文部省会計局長 久保田譲 印

小野九郎 印
神田区駿河台南甲賀町六番地

六

東京音樂學校

收發簿 五會七之三 第一九一號

決裁 第一五號

會計局長

大臣 臨時 (臨之四二年四月十日)

總務局長 廻

東京音樂學校教師雇入ノ件 (雇之四二)

東京音樂學校教師雇入ノ件ヲ別紙ノ通リ定メラレ度此段伺ヒ候也

明治四十二年四月十日

文部大臣 牧野伸顯

東京音樂學校教師雇入ノ件

東京音樂學校教師雇入ノ件ヲ別紙ノ通リ定メラレ度此段伺ヒ候也

明治四十二年四月十日

文部大臣 牧野伸顯

東京音樂學校教師雇入ノ件

東京音樂學校教師雇入ノ件ヲ別紙ノ通リ定メラレ度此段伺ヒ候也

明治四十二年四月十日

文部大臣 牧野伸顯

廿二、四、六 (山本)

用度課 (山本)

出納課

事務

校

70

東京音樂學校

校長

幹事

二十二日午後七時

庶務係

本校教師チャールス、ルードルフ、チャイトルを傭入ることを

本部向ケ富永生所二番地新築為ニ付

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Tokyo Academy of Music
July 8th

Mrs. Dixon.
Dear Madam,

Allow me to express my deep thanks for your kind assistance in English given in the Tokyo Academy of Music. Under some circumstances, however, I am obliged to inform you that I can not renew your term, so it should be understood that it come to end on the 31st of June, 1889.

I remain
Dear Madam.
your ever attached

the Director

[illegible]

[illegible]

[illegible]

會計 音第三 四號

本郷向ヶ岡私立地内学校ノ前用ノ教師欽ヶ屋ふん
三門ノ位置并ニ勝ヶ水流取設方ノ儀ニ付テハ曩ニ
諮ヶ了ノ通リ去ル三月文部大臣ヨリ該学校ニ
対シ主任ヲシテ淡島寒月ヲシテ交渉セシメ
学校ノ敷地ノ儀ハ借約面ニ数沙館ニ要ふんお
当ノ敷地ヲ供フヘシトヲ以テ交渉セシ処
明治三十年ヲ以テ契約ノ期限ヲ満了スルヲ以テ
之ヲ返還スヘキ旨ヲ以テ交渉セシ処也
甲之部第一課 曾禰荒助

東京音楽学校ヘ

学校ノ儀ニ付テハ曩ニ
借約書ハ学校ヘモ内保存ノ儀ニ付テハ
文部省

文部省 會計局 明治廿年度 書類

東京音楽学校

明治二十年

外國人ニ關係ヲ有スル

東京音樂學校

Tokyo Academy of Music,
Oct. 15, '89.

Prof. R. Diedrich,

Dear Sir:

Through your earnest labor, the Organ accompaniments for songs compiled in our Institute, are ev'ry well done. So I have the honour to present you the sum of one hundred yen in the acknowledgment of the above.

I remain
Sir
your most obedt

The Director of the
Academy of Music

目錄

一　千一十五丈人　嘅把
二　李領外國新訂
三　郵便電信
四　李領館
五　日件
六　千一十五丈人

東京音樂學校

東京音樂學校

Tokyo Academy of Music
March . 1890.

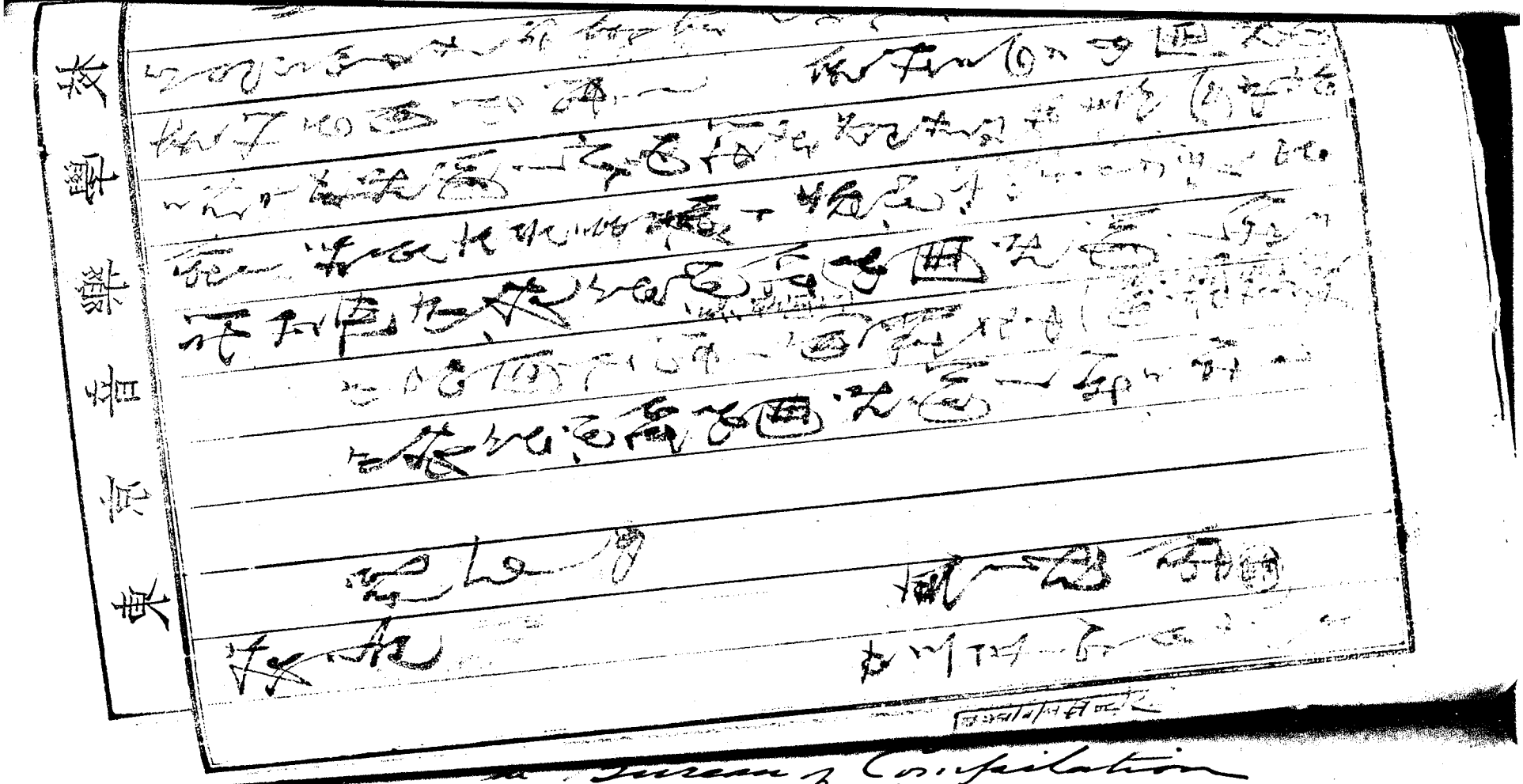
Mrs. J. Tietge
Dear Madame

I beg hereby to inform you that your term is renewed from April 1 to July 31, 1890 in the same conditions as before.

I am
yours very truly
S. Isawa
Director of Tokyo Academy of Music.

東京音樂學校

東京音樂學校



Bureau of Compilation
Department of Education
April 1, 1890.

Mrs J. Tielge
Dear Madame

I beg to inform you that you are hereby engaged by the Bureau of Compilation from April 1st 1892 to July 31st 1890 in the same condition as the former contract.

Yours very truly

Chief of the Bureau of Compilation of the Dept. of Education

東京音樂學校

音第二八号

明治二三年五月十七日

東京音樂學校

東京音樂學校

文部省

文書往復 明四二〇號

別紙の通り東京郵便電信局より
照会これあり候ところ右は内容御承
知の事と存じ候間は回答相成
可然哉此段及御照会候也

文部省

東京音樂學校

東京音樂學校

音乙号

文部省往復
寅令二八九號

学校医ノ件

各府県ニ於テ学校医ヲ嘱託スルニ当リテハ従来ノ慣例ニ拠リ医師ノ主義ヲ問ハス一般ニ適当ノ人物ヲ選ヒ嘱託スヘキ旨ハ曩ニ訓令シタル処ナルカ今般文部省ニ於テ学校医ノ職務ヲ規定シ別紙ノ通リ告示スルニ付テハ学校医ノ嘱託ニ関シテハ特ニ学識アル医師ヲ選ヒ嘱託スヘキ旨ヲ以テ文部大臣ヨリ訓令相成度此段及通牒候也

明治二十三年七月二十六日

文部大臣子爵 森有禮

文部次官 中川元

84

東京音樂學校

APR 19 1890 F.D.

the methods, by which this end is reached, are manifold and ever changing according to the individuality of the teacher and the pupil. Miss Koda now has at present fully entered in the spirit of my method, enjoys her work and is advancing at a rate, that she could leave here as a very creditable performer and accomplished musician in about two more years. After she has completed her course here, a year's travel and stay in Europe would of course be very beneficial to her taste & widen her horizont in musical and general matters; but even this would be more of a luxury, than of a necessity, as we have as good instructors here as they have there and the musical life of Boston can compete with the life of musical centres in Germany.

I could understand, if you had sent her from Japan directly to Germany, but it seems almost cruel, to have her taken away in the midst of a course, at a point, at which she is just commencing to ripen the results of her first year studying here. I hope you will reconsider the matter once more and change your decision in her favor. I am very much satisfied with the talent and progress of Miss Koda

Boston U. S. A. April 18. 1890.
N. E. Conservatory of Music

Mr S. Izawa,
Tokyo Academy of Music.

Dear Sir, I take the liberty to write to you in the interest of my pupil Miss Noba Koda, who feels exceedingly sorry, that she is ordered to break up her musical studies here and to resume them in Germany and I cannot help to consider this a rather unfortunate and experimental arrangement for her.

All music teacher of higher standard have of course the same end in view, namely: to make their pupils artistic performers and thorough musicians, however

and shall be glad to have her continue with me.

Very respectfully
Carl Faelten
Professor of Pianoforte at the New England Conservatory Boston.

I fully endorse the views of Mr C. Faelten & would be glad if Miss Noba Koda would continue her studies under my direction.

Very respectfully
Emil Mahr
Prof. of Violin at the New Engl. conservatory Boston.

東京音樂學校
Tokyo Academy of Music.
Tokyo. Japan.

文部省往復 第二八九號

今般

左記ノ通

一、大 阪 府

東京音樂學校

音第三七号

東京音樂學校

文部省

會計局第五〇〇號

貴校佳外國教師住居ノ敷地ニ係ル賃借ノ件ニ付テハ曩ニ契約書ヲ以テ御照會ノ趣有之候処右ハ最前文部大臣ノ裁定ヲ經テ取極ノ通ニ有之候ニ付テハ此際更ニ別紙ノ通リ新タニ契約書ヲ取換ヘラルヘキ事

明治二十三年七月二十日

文部省會計局長中川元

東京音樂學校殿

閲覧

東京音樂學校

音四四号

第八一

千一千二十六年 [illegible] 廿三日 [illegible]
この旨御承知 [illegible]
明治廿三年七月廿四日

永井文部大臣 秘書官

伊澤東京音樂學校長殿

追而 [illegible]
檢査濟之上 [illegible]
事柄之次第 [illegible]
但 [illegible]

第八一

音

明治二十九年七月十日

十一

文部省

第一
チーチエ女傭給一件 明治廿三年七月廿四日

この度雇入候女傭給料の儀は一ヶ月金壱円弐拾銭宛相渡候様致度此段及通牒候也

明治廿三年七月廿四日

東京音楽学校長殿

文部大臣 森有礼

追て傭入候上は主従の中立方等閑に無之様注意可致候事

検査院より一通り都合を尋ねられ候節は詳細申立候様訂約致置候事

但解雇の節は一ヶ月前に予告可致候事

東京音楽学校

音六

明治二十三年七月廿四日

貴校雇塡國人チヲトリヒ内地旅行免状交付
相成候ニ付及回致候条市領収有之候也
明治廿三年八月一日

文部大臣秘書官

東京音楽学校長伊澤修二殿

Tokyo 29/7. 90.

Dear Mr Izawa!

After having decided to leave Tokyo the second of August to take a repose ment in the country, I kindly beg you to procure for me and my wife a pass-port from Mon The places, which I m to have mentioned on certificate are: Ikao M and Miyanoshita. I hope no other notices are and that I may obtain the pass-port till the above-mentioned day. remain with many Thanks yours very tr

Rev. Dit

20 years old,
30 years old.

東京音樂學校

旅行趣意書

旅行路筋

健康

東京ヨリ沼津ニ至リ沼津ニテ日光ニ至リ上野ニ

伴者

警部巡査ニテ警護ノ事

汽車ニテ當事者ノ外

時限立候事ニ候ハヽ相當ノ取扱ヲ以テ

御取扱有之度此段

御願申上候也

十三号

本校在外国殺加哇地務所ノ免状之写

国籍　仏蘭西

本人姓名　ルイ・ルネー・オーギュスト・ドビュイソン　Louis René Auguste Dubuisson

同行妻姓名　ルイズ・ドビュイソン　Louise Dubuisson 30 years old,

官仕　東京高等中学校教員

寄留地名　東京府下本郷区湯島三組町二番地

旅行趣意　健康保養

旅行路筋　横浜ヨリ汽車ニテ日光ニ至リ上野ヨリ汽車ニテ帰京ス

時限五箇年

相違ノ有根究ノ上ニ而ハ免状取上ケラルヽ者也

施行期限　八月二十日ヨリ三十日マデ

右施行候条此旨布告候事

年　月　日

江戸大阪

町奉行

年　月　日

町奉行

事

年　月　日

庶務係

年　月　日

庶務係

年　月　日

庶務係

在米國獨逸人ニ井ル
逸中學校及師範學
多年ノ經驗ヲ以テ
獨逸語英語ピ
教員ヲ嘱シ
究輸入ニ
可相成地位モ有之候ニ付御校ニ於テ採用
尚採用ノ御見込有之候ハヽ本人履歴書
委細可申伸候此段及照會候也

明治廿三年七月廿六日

文部大臣秘書官永井久一郎

東京音樂學校

東京音樂學校長伊澤修二殿

追テ本人雇入ニ付テハ別紙去ル明治五年中東京第一番中學教頭エルベックヨリ申込條件ニ隨ヒ處由ニ有之候

エルベックヨリ雇入條件

チンメルマンヘ對シ申出之

執務時間　毎日五六時間

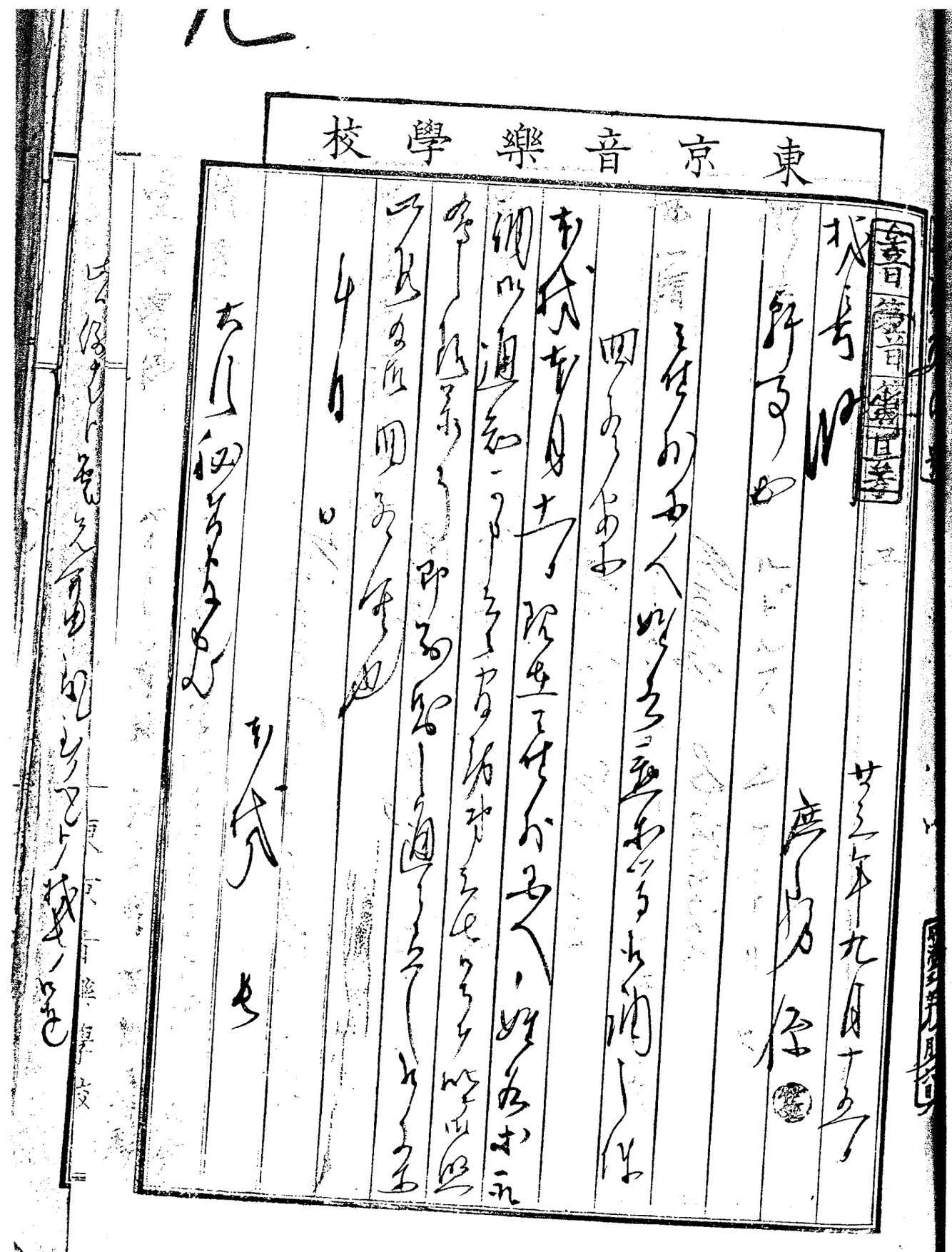
休業日　日曜日、大祭日、夏期休業一ヶ月、冬期休業十四日間

雇期限　三ヶ年

俸給　月給二百五十円横濱ヘ來着ノ日ヨリ毎月拂渡スヘキ事

赴任旅費　二百五十ドル最初日本ヘ到着次第拂渡スヘキ事

東京音樂學校



姓名	ルードルフ・ディートリヒ
	Rudolf Dittrich
本籍	オーストリー國ウイーン府
	Austria, Vienna
學位	フロフェッソル・オブ・ミュージック
	Professor of Music
學位授與ノ校	
	Vienna Conservatory of Music
職業	東京音樂學校教師
現住所	小石川區原町一番地

月給　銀貨二百五拾圓

該費ニ乗船、帰國ニ　銀貨一千二百圓ヲ

但自身及妻共

雇期限　明治廿二年十二月一日ヨリ同廿四年九月一日マテ

妻　ペリン、チフトリヒ

住所　本府西陽生町數十ノ地

Perine Dittrich

ヨハンナ　ベルメ　ヤー　チーゼ

Johanna Louise Bertha Kiese

好ミ

Gefallen

ベルリン

Berlin

雇業

Dienst

学校　ナシ

学校ニ於ケル成業ノ年限

修業

年期ノ如

自修

ナシ

雇業

御校本月十一日現在雇并嘱託外國人ノ姓名（別文共）勲等、他官廳兼職、本籍國名、學位稱號、并其受領ノ俸校等別文職掌、受持季科、月給、旅費、未帰國共、雇期限、最初條約并現條約共、居處及妻子有無、若シ有之場合ニハ其名、并ニ本年一月以来解嘱、新嘱託外國人ノ有無、付テモ、今上ノ件々、取調御通知有之度、此段及照会候也

明治廿三年九月十二日

文部大臣秘書官永井久一郎

東京音樂學校長伊澤修二殿

文部省

十

東京音樂學校

校長

幹事

千ヲトリ氏ヨリ音樂学校ニ関スル一冊子ヲ御寄贈ニ預リ候ニ付テハ一通御閲覧ノ上左様御取計ヲ乞フ

廿二年十月廿七日

森有禮

明治二十二年

文部省

文部大臣 森有禮殿

第一條 本館ハ音樂ニ関スル書籍及ヒ樂器ヲ蒐集シ之ヲ保存シ且ツ公衆ノ縱覽ニ供スルヲ以テ目的トス

第二條 本館ハ東京音樂學校ニ附屬シ其ノ管理ハ同校長ニ屬ス

第三條 本館ニ館員若干名ヲ置キ文部大臣之ヲ命ス

第四條 館員ハ書籍及ヒ樂器ノ出納ヲ掌リ且ツ縱覽人ヲ監視ス

第五條 本館ハ毎日午前十時ヨリ午後四時マテ縱覽ヲ許ス但シ休日ハ此限ニアラス

第六條 縱覽人ハ館内ニ於テ喫煙スルヲ得ス

第七條 縱覽人ハ館内ニ於テ飲食スルヲ得ス

第八條 縱覽人ハ館内ニ於テ高聲ヲ發シ又ハ喧譁スルヲ得ス

第九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ毀損スルヲ得ス

第十條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第十一條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第十二條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第十三條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第十四條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第十五條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第十六條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第十七條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第十八條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第十九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十一條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十二條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十三條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十四條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十五條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十六條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十七條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十八條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第二十九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十一條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十二條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十三條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十四條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十五條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十六條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十七條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十八條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第三十九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十一條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十二條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十三條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十四條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十五條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十六條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十七條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十八條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第四十九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十一條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十二條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十三條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十四條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十五條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十六條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十七條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十八條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第五十九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十一條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十二條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十三條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十四條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十五條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十六條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十七條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十八條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第六十九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十一條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十二條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十三條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十四條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十五條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十六條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十七條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十八條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第七十九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十一條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十二條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十三條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十四條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十五條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十六條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十七條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十八條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第八十九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第九十條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第九十一條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第九十二條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第九十三條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第九十四條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第九十五條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

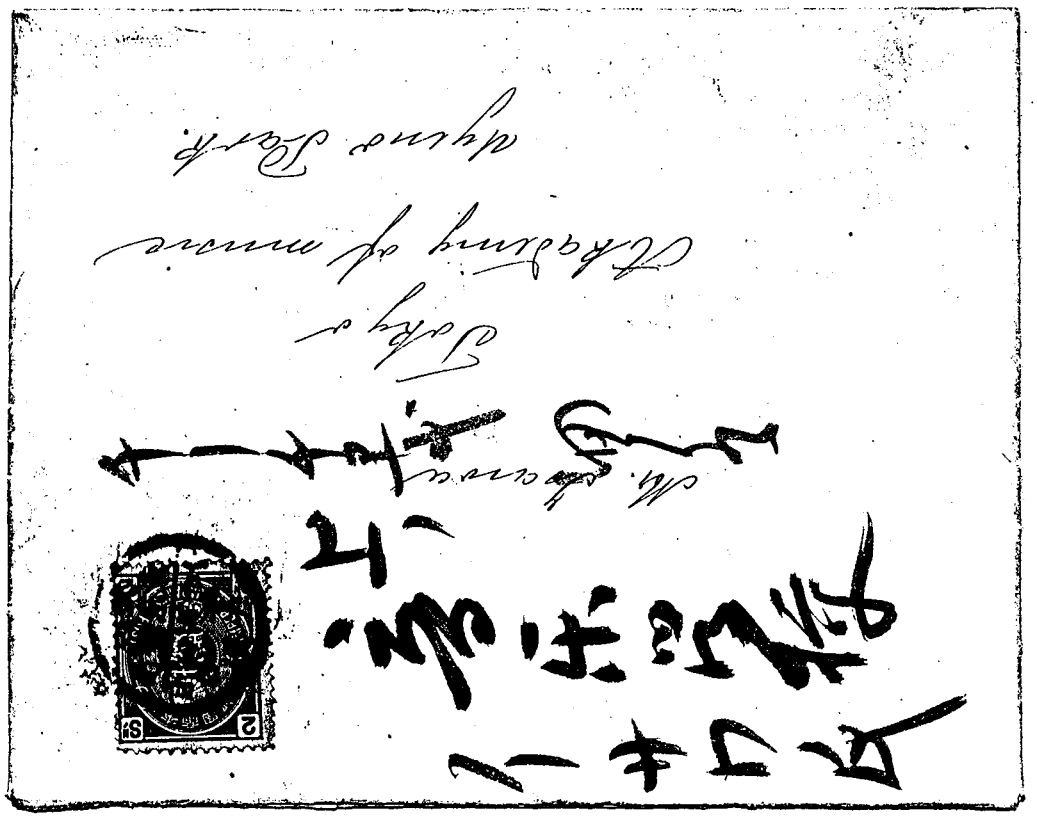
第九十六條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第九十七條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第九十八條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第九十九條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス

第百條 縱覽人ハ館内ニ於テ書籍及ヒ樂器ヲ携帯スルヲ得ス



Frau Johanna Dietze.

says many thanks to
Mr. Isaacs for the kindly
sending of the certificate.

S. Izawa Esq.

Director of the

Tokyo - Academy of music.

Tokyo 27./10. 90.

S. Isawa Esq.
Director of the Tokyo-Academy
of Music.

Dear Sir, — Answering
your kind note I have the
honour to communicate you
that I have no objection,
that my salary in the
Academy is diminished so
long as I am engaged by
the department of education
for the work, specified by
the private secretary of H.E.
the Minister of State for
Education.

I have the honour to
sign as
your
obedient serviteur
R. Gétrief

Prof. R. Dettrick.

dear Sir.

I have the honour to communicate you that your salary in the School shall be diminished to half the amount of the first sum, for the time when you are paid by the Department of Education for the work which would be specified through the privati Secretary of H. E. Minister of State for Education.

Hoping that you would agree with our proposal I remain

your obedient servant

S. Izawa

Director of the Tokyo Academy of Music.

拝啓陳者来十月一日より明治芸
音楽書倫敦ニ関スル講話ヲ嘱托シ
国文ノ紹介ニ就テモ、右事業、東京音楽学校ヨリ
依嘱候間承諾ノ旨

文部省専門学務局長

The Tokyo Academy of Music.

Prof R. Dittrich.

Dear Sir.

I have the honour to communicate you that your salary in the School should be diminished to half the amount of the fixed sum, for the time ~~when~~ while you are paid by the Department of Education for the work which would be specified through the private secretary of H. E. Minister of State for Education.

Hoping that you would agree with our

proposal.

I remain.

Your obedient Servant

Director of the Tokyo

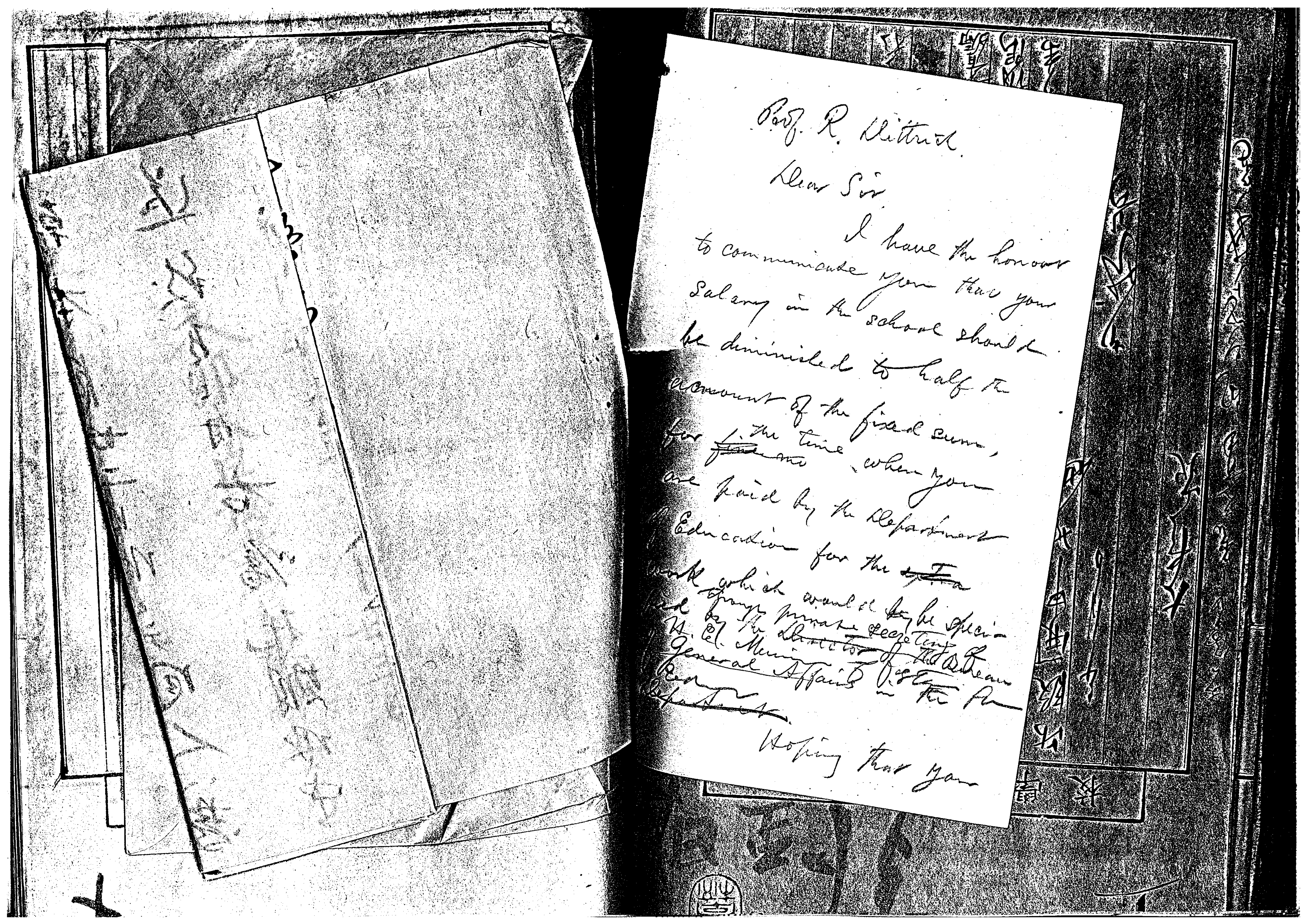
Academy of Music.

拝啓陳者チットリヒヘン音樂書
編纂ニ関スル解説嘱托ニ書
翰本月廿二日附ニテ同人ヘ送
送致方ニ付右嘱托期限中
出張ニ相当ニ付同人給料ニ
半額減額スヘキ旨可然回
人ヘ御通達有之度此段
為念申進候也

明治廿三年十月廿三日

文部大臣秘書官永井久一郎

東京音樂學校長伊澤修二殿



Prof. R. Dittrich.

Dear Sir

I have the honour to communicate you that your salary in the school should be diminished to half the amount of the fixed sum, for ~~[illegible]~~ the time, when you are paid by the Department of Education for the ~~[illegible]~~ work which would be special[illegible] [illegible] by H. E. Minister ~~[illegible] private secretary~~ [illegible] General Affairs [illegible] in the [illegible] ~~[illegible] Department~~.

Hoping that you

1890 and
day of November, ~~and~~ ending
the last day of March 1891.

Hoping that you would
agree with our proposal, I
remain

Your obedient Servant

~~S. Tsudzuki~~

~~Vice-Minister of State for~~
~~Education and Director of the~~
~~Bureau of General Affairs in~~
~~the Department of Education~~

K. Nagai

Private Secretary of H
Minister of State for Educat

東京音樂學校

音第三四号

十三年十月廿九日